

茨城県における平成23年産サツマイモの 生産概況

茨城県農業総合センター
主任専門技術指導員

西宮

聡

1. 近年の生産概況

サツマイモの作付面積は、平成初期より漸減傾向が続いているが、近年は6,500～7,000ha、普通畑面積に占める割合は9～10%の間で多少の増減をしつつもほぼ横ばいで推移しており、平成23年は6,530haであった。このうち販売目的での作付面積は概ね6割である。

品種別作付面積は、近年大きな変化はなかった。青果用は「ベニアズマ」が殆どでサツマイモ作付面積の74～76%を、一方蒸切干し用は「タマユタカ」が殆どで、サツマイモ作付面積の20～23%を占めてきた。「ベニアズマ」は主に鉾田市、行方市で、「タマユタカ」は主にひたちなか市で作付けされている。この他には、高系系統（奨励品種「出島系4」を含む）、「パープルスイートロード」、「紅赤」、「泉13号」、「ヒタチレッド」、「タマオトメ」等がある。

しかし数年前より新たな動きが見られる。青果用では平成15年度に準奨励品種に採用した「べにまさり」が、市場評価が良好であることから作付けが拡大しており、平成20年には100ha、平成22年には180haであった。今後更に拡大する見込みである。また、掘り取り直後から甘味が強く粘質な「べにはるか」も市場評価が高く、栽培面積は急速に拡大しつつある。蒸切干し用で



図1 「ほしキラリ」の蒸切干し（干しいも）

は、外観、食味に優れる「ほしキラリ」に関心が集まっており、作付面積はごく少ないながら、平成23年度には準奨励品種に採用された（図1）。

2. 平成23年の気象と生育の概況

梅雨明けが早く、その後高温が続いたため、皮脈の発生は多かったものの、品質面で大きな問題となることはなかった。収量は平年よりやや多く、豊作傾向であった。

（1）茨城県農業研究所（水戸市）における状況（表1、表2）

サツマイモの生育期間（5月19日～10月17日）の気象は、直近5ヵ年の平均に比較して、平均気温は+0.6℃、日照時間は112%、降水量は134%であった。梅雨明けは12日早い7月9日、梅雨明け後10日間の

水戸地方の平成23年5～10月の気象概況

水戸地方気象台観測値

旬	平均気温	平年値	最高気温	平年値	最低気温	平年値	降水量	平年値	日照時間	平年値
5月上旬	15.7	15.6	21.0	20.7	11.0	10.8	22.0	35.0	39.7	58.8
5月中旬	17.7	16.1	23.0	20.7	12.2	11.8	50.5	53.1	65.7	50.4
5月下旬	16.6	17.5	20.7	22.3	13.3	13.2	112.5	45.2	38.1	67.2
6月上旬	18.8	18.9	23.6	23.3	14.7	14.9	28.0	31.5	48.8	56.2
6月中旬	20.2	19.7	24.0	23.8	17.4	16.4	61.0	51.4	18.1	42.3
6月下旬	24.4	20.5	28.9	24.2	21.0	17.6	14.0	60.3	55.4	31.3
7月上旬	26.1	22.0	30.8	25.9	22.8	18.9	32.5	51.6	64.1	39.5
7月中旬	27.9	23.4	32.8	27.5	23.7	20.3	100.5	46.0	88.0	40.8
7月下旬	23.2	24.9	27.4	29.2	20.1	21.6	119.5	36.5	40.1	60.7
8月上旬	26.1	25.6	30.8	30.0	22.9	22.2	3.5	42.9	60.9	61.4
8月中旬	27.5	25.2	32.3	29.6	24.0	22.0	50.0	40.0	70.6	56.2
8月下旬	23.5	24.9	26.9	29.2	20.5	21.6	74.5	48.9	45.2	58.0
9月上旬	25.2	23.7	29.4	27.9	21.7	20.5	94.0	39.9	55.3	48.8
9月中旬	25.5	21.9	30.0	25.9	22.0	18.6	9.0	64.6	72.9	40.4
9月下旬	18.8	19.5	23.4	23.6	14.6	15.9	160.5	76.9	49.5	38.8
10月上旬	16.8	18.0	21.5	22.2	12.6	14.3	95.5	71.4	52.5	39.4
10月中旬	17.8	16.3	21.8	21.1	13.8	12.1	17.0	45.7	32.5	46.2
10月下旬	16.0	14.0	20.7	19.2	11.8	9.3	53.0	50.3	50.4	55.9

表1 収量調査（挿苗後151日、10月17日掘り取り）

品種名	つる重			総いも重			上いも重		
	H23 kg/a	前年比 %	平年比 %	H23 kg/a	前年比 %	平年比 %	H23 kg/a	前年比 %	平年比 %
ベニアズマ	297.4	117 (255.2)	137 (217.3)	317.1	98 (324.2)	94 (336.4)	301.1	94 (320.0)	91 (331.0)
タムユタカ	220.5	108 (203.7)	105 (209.7)	336.4	93 (361.0)	100 (335.4)	325.7	94 (346.0)	100 (326.4)

品種名	1株あたりいも数（上いも）			いも1個重（上いも）			澱粉含量		
	H23 個	前年比 %	平年比 %	H23 g	前年比 %	平年比 %	H23 %	前年比 %	平年比 %
ベニアズマ	3.6	129 (2.8)	113 (3.1)	213.8	73 (291.7)	80 (267.0)	23.6	93 (25.4)	103 (23.0)
タムユタカ	3.9	82 (4.7)	105 (3.7)	211.3	114 (184.7)	93 (228.5)	19.5	94 (20.7)	102 (19.2)

注1 5月19日挿苗。ベニアズマは黒マルチ栽培、タムユタカは無マルチ栽培。

注2 施肥量（kg/a）：窒素0.1、リン酸1.2、カリ1.0。a当たり栽植本数は400株。

注3 （ ）内は前年または平年値。平年値は平成18～22年の5か年の平均値。総いも重は直径3mm以上のいも、上いも重は50g以上のいもの重量。

表2 収量調査（挿苗後151日、10月17日掘り取り）

品種名	サイズ別収量			品質区分				障害いもの発生率					
	S以下 (kg/a)	M+L (kg/a)	2L以上 (kg/a)	A品率 (%)	丸品率 (%)	B品率 (%)	C品率 (%)	裂開 (%)	皮脈 (%)	条溝 (%)	曲がり (%)	くびれ (%)	尻こけ (%)
ベニアズマ	96.4	208.6	12.1	33.6	4.1	32.3	30	0	10.1	5.7	17.1	41.8	4.7
平年比（%）	131	103	20	65	150	117	178	0	6310	393	104	142	199
タムユタカ	106.2	216.5	13.7	38.9	30	23.3	7.8	1.3	0	0	14.3	14.4	5.1
平年比（%）	104	117	29	153	63	192	53	23	—	0	166	139	106

注4 いも1個重により、S以下：200g未満、M+L：200g以上500g未満、2L以上：500g以上、で区分した時の収量。

注5 品質区分・障害いもの判定は茨城県青果物標準出荷規格による。数値は個数%。

注6 平年比の「—」は平年値が0%であることを意味する。

平均気温は+4.1℃、日照時間は332%、降水量は7%であった。

サツマイモの掘り取り調査は、平年並みの挿苗後151日に行った。つる重は「ベニアズマ」では平年より重く、「タマユタカ」では平年並みだった。

地下部の生育は、「ベニアズマ」では1株当たりいも数が多く、いも1個重は軽くなったが、「タマユタカ」では1株当たりいも数、いも1個重とも平年並みであった。上いも重は、「ベニアズマ」では平年よりやや軽く、「タマユタカ」では平年並みだった。

サイズ別収量は、「ベニアズマ」、「タマユタカ」とも2L以上の収量が平年より少なかった。「ベニアズマ」ではSサイズ以下の収量が、「タマユタカ」ではM+Lサイズの収量が平年より多かった。でん粉含量は、両品種とも平年並みだった。

「ベニアズマ」で皮脈の発生が平年より大幅に増加したが、これは梅雨明けが平年より早かったことにより、いも肥大初期に高温乾燥条件が続いたことによるものと考えられた。「タマユタカ」では曲がり及びくびれの発生率が平年より高かったが、裂開と丸いものの発生率が少なく、A品率は平年より高かった。

(2) 産地における状況

産地の農業改良普及センターからの情報は、概ね以下のとおりである。

①収量

平年より1～2割程度多かった。

②外観品質（図2）

「ベニアズマ」ではA品率50～60%、1株当たりいも数は3～4。4月挿苗8月中下旬掘り取りのいもではA品率が高かったが、挿苗時期が遅くなるにつれA品率は低下傾向であった。大規模生産者においては挿苗が遅い時期まで続くが、6月中旬以降に挿苗した分については皮脈の発生が激しかった。裂開は少なく、曲がりの発生は多かった。挿苗時期によっては条溝も多く見られた。

「べにまさり」ではA品率50～60%、1株当たりいも数は2.5～3。6月中旬以降の挿苗では皮脈の発生が目立った。挿苗時期によらず丸いものの発生は多かった。

「べにはるか」ではA品率70～80%、1株当たりいも数は4.5～5。いも数は多く、揃いが非常に良かった。形状不良ないもは曲がり、くびれや条溝などが多かった。

③内部品質

「ベニアズマ」では掘り取り後間もない時期から、焼きいもにした時に適度にしっ



図2 現地掘取調査の様子（左から「ベニアズマ」、「べにまさり」、「べにはるか」）

とりした食感になるものが多かった。また12月になると甘みも強くなった。でん粉含量の多いいもでは、掘り取り直後はホクホク感が強く、甘味は少なかったが、一昨年には粉質で甘さのない状況ではなく、実需者からのクレームは発生していないとのことである。いも内部が褐変する症状は、ごく一部で発生したが、販売上問題になる

ほどではなかった。

「べにまさり」では、この品種らしく掘り取り直後から比較的粘質、適度に甘味もあり、問題は生じていない。

「べにはるか」は掘り取り直後からかなり甘味が感じられ、実需者、消費者の評価は高かった。1月時点では、糖化が更に進み、肉質はかなり粘質になっている。

□寄稿のお願い□

(財)いも類振興会では、サツマイモ、ジャガイモなどいも類の振興と消費拡大を図る一助として、「いも類振興情報」(季刊)を発行しています。いも類に関する総説、調査・研究解説、産地情報、海外情報、商品情報、料理・文化などの寄稿をお願いします。原稿の執筆要領は、下記のとおりです。

1. 原稿はパソコンのワープロ・ソフトを用いて作成し、E-mailの添付ファイルで送付下さい。なお、手書き原稿でもかまいません。
2. 編集の都合上、OSはWindows、使用ソフトは次のものを使用下さい。
本文はWord(一太郎、テキストも可)。図表などはWord、Excel、PowerPoint。
3. 掲載1回分の頁数(1頁で約1,200字)は、図表・写真を含めて概ね6頁以内となります。
4. 編集の都合上、原稿の一部を割愛、修正する場合がありますので、予めご了承下さい。掲載原稿には、規定の原稿料と掲載誌を若干部お送りします。
5. 原稿の送付先

〒107-0025 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303 財団法人 いも類振興会
E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp TEL: 03-3588-1040 FAX: 03-3588-1225